

全国人権保育研究会報告

1月19日(土)・20日(日)の両日、全国各地からおよそ2,000人の保育関係者などが集まり、「第35回全国人権保育研究会」が米子市で開かれました。今回は、この研究会の参加報告です。

1日目に行われた全体会の基調提案では、「公立保育所から民間保育所への委託が進む中で、公立保育所として果たす役割を明確にする必要がある」との提案がありました。そのためには、保育時間の長さだけでなく、しっかりとした保育の理念と保育の自身を保障していくことが大切だと強調されました。

記念講演では、「子ども・子育て新システムとこれからの保育所」のテーマで、関西大学教授の山縣文治先生の講演を拝聴しました。

急速な少子化の進行や家族構成の変化、地域のつながりの希薄化などにより、子どもや子育てをめぐる環境は大きく変化してきました。昨年8月10日には、参議院において、新システムによる子ども・子育て関連法が可決成立しました。それに伴い保育所のあり方や、子育て支援のあり方がめまぐるしく変わりつつあります。その中で、保育に携わる者は、新制度の動向を見守り自分の立ち位置を自覚しながら、自己変革をしていかなければならないと

いう内容でした。

講演を聞きながら、すべての子どもの視点に立った子育ての施策の策定も、大きな課題だと思いました。

2日目は、8つの分科会に分かれ、各分科会での柱に沿って熱心に討議が行われました。

第5分科会「ともに育ちあう仲間づくり」では、奈良県人権保育研究会の取り組みについて報告がありました。奈良県人権保育研究会は38年の歴史があり、保護者と共に解放運動に取り組んでこられた研究会です。この研究会に参加するすべての保育所、こども園において共通して取り組まれたことは、「配慮を必要とする子どもを観察して、その姿を書く」「その子どもに対する自分たち(保育者)の行っていることや保育を書く」など、一人ひとりの子どもの綿密な見取りと記録、そして関わりでした。

報告者や助言者からは「子ども同士の育ちあいを育てるクラスづくり」をすることが大切だということが、たくさん語られました。

この分科会は、参加者一人ひとりにとって「ともに育つ仲間づくり」、「子ども一人ひとりを大切に育てる保育」とはどういうことなのか、改めて考える契機になったことと思います。さらに、世界に一人しかいない『個の子』をどう見るといえるかが、子どもの保育にかかわる者の課題だと強く思いました。

平成24年度 大山町人権講演会

日時 3月17日(日)
10時30分～12時30分
場所 保健福祉センターなわ
講師 中山千夏さん

演題 「人権の舟」



なかやま ちなつ
中山千夏さん

紹介

1948年生まれ。8歳で舞台デビュー。「名子役」時代を経て、俳優、テレビタレント、歌手。70年からはライターとしても活躍。60余冊にのぼるノンフィクションのテーマは、女性の人権、古事記と、多岐にわたり創作では小説のほかに絵本も手掛ける。近著に「日本絵本賞」受賞の『どんなかんじかなあ』(自由国民社)『蝶々にエノケン』(講談社)がある。居住する伊豆半島の海をホームグラウンドに、約20年900本の経験を持つベテランのスクーバダイバーでもある。

前回、飛行機の欠航で中止となりました中山千夏さんの講演会を改めて行います。

たくさんご参加いただきますようお願いいたします。

主催 大山町、大山町教育委員会、大山町人権・同和教育推進協議会

問い合わせ先 人権交流センター

☎ 0859-54-2286

FAX 0859-54-2413

※手話通訳をおこないます。